

児と思われるもの一八、小学校児童と思われるもの二一でいずれも母親または父親または家人が同伴している。結果について述べる。(1) 所有化の型では山の手よりも工場街、工場街よりも農村地帯が親中心に傾く。

(2) 親子関係と禁止の数では三地域の差が見られる。すなわちことも中心では山の手および工場街では禁止のあるものが多いものがほぼ同数だったが、農村地帯では禁止のあるものがずっと多い。親中心では山の手地域では禁止のあるもの無いはほぼ同数であったが、工場街および農村地帯では禁止のあるものがずっと多い。

(3) 禁止の理由および玩具要求数は地域差は見られない。

(4) 親子関係と子どもの年令では幼稚園以下では三地域とも親中心に傾いたが、幼稚園の場合は工場街および農村地帯ではかなり親中心に傾き小学校においては山の手および工場街では子ども中心が多くなっているのに農村地帯では依然として親中心に傾いている。

(5) 同伴者の場合は父親同伴の場合にだけ差が見られ山の手から工場街、工場街から農村地帯へと子ども中心が減っている。

(6) 満足状態では工場街および農村地帯では一定の傾向が認められず山の手に比べて、子どもが玩具を手にした時の表現からはそれを捉えにくいということが言えるように思われる。

「言語経験を豊かにするための

絵本による指導法」について

神戸聖公幼稚園 笠井謙守

マス・コミ時代の、しかも、成熟期年令低下の叫ばれる現今、絵本の教育的価値と、積極的な言語経験の育成すなわち文字に気づいた子どもの指導法の一端を、詩的なカルタつくりの具体例をもとにして考慮した。先ず快適な環境設定であるが、教師の温い態度と、落ちついた雰囲気と、常に新鮮味のある部屋や設備すなわち、喜んで絵本をみたくなる場の構成などの環境を整備設定すること。これにより、みんなで絵本をみようとする興味と意欲が盛んになり、そこで言語指導も、幼児のこよなき喜びの場となるのである。

したがってその理想的な環境整備と共にそれが指導計画においても、教師は常に備え付けの絵本に精通し、絵本の指導も教育計画の中に系統的に織り込み、有効適切な計画をたてるのが大切である。

次に、絵本による指導法としては、プリント一九八頁にあげてみたが、これらの言語指導のみりとして、十二月から一月にかけて年長組を対象とした詩的なカルタ遊びの具体例を申し述べる。(プリント一九七頁経験の箇条書参照) この遊びによる教育的効果は、プリント一九八頁の六項に大別出来るのである。

幼児向絵本に関する調査

(その1) 幼稚園における絵本使用の状況

埼玉大学 野間郁夫

国立国語研究所 村石昭三

東京魚籃幼稚園 山田巖雄

東京学芸大学付属幼稚園 高杉自子

第1表 調査園数

園児数別	50人以下			100人以下			200人以上			201人以上			計		
	国	公	私	国	公	私	国	公	私	国	公	私	国	公	私
①北海道	0	0	0	1	1	9	1	1	9	0	1	3	2	3	21
東北	0			11			11			4			26		
②関東	1	0	1	3	13	11	2	18	15	0	10	5	6	41	23
甲信越	2			27			35			15			79		
③近畿	0	1	0	1	6	1	1	6	5	0	5	1	2	18	7
中国	1			8			12			6			27		
④四国	0	0	0	2	4	1	0	2	1	0	0	2	2	6	4
九州	0			7			3			2			12		
合計	3			53			61			27			144		

第2表 一園当り年間絵本購入冊数園として購入 (括弧内は園数)

園児数設置者	㊶	㊷	㊸	㊹	一園平均
	50人以下の園	100人以下の園	200人以下の園	201人以上の園	
国立	170(1)	152.6(7)	264.0(4)	(0)	191.2(12)
公立	52(1)	108.4(24)	140.3(22)	221.9(13)	143.7(60)
私立	180(1)	85.6(18)	151.9(21)	174.4(7)	130.4(47)
平均	134(3)	106.3(49)	156.0(47)	205.3(20)	143.3(119)

第3表 絵本購入年間経費(単位園) (昭和32年4月より一年間)

	㊶	㊷	㊸	㊹	計
2,000円未満	1	3	8	0	12
2,000円以上	0	19	8	2	29
5,000円以上	0	13	7	5	25
7,000円以上	1	6	13	2	22
10,000円以上	1	5	11	8	25
20,000円以上	0	2	3	3	8
計	3	48	50	20	121
%	2.5	39.7	41.3	16.5	100
一園当り金額平均(円)	6,933.3	5,889.7	7,692.6	13,071.9	8,392.3

第4表 一園当り日常使用絵本冊数 (括弧内は園数)

	㊶	㊷	㊸	㊹	一園平均
国立	350(1)	308.6(7)	487.5(4)	(0)	371.7(12)
公立	132(1)	148.9(23)	153.0(23)	231.4(15)	169.4(62)
私立	340(1)	107.3(19)	177.1(22)	209.4(11)	161.2(53)
平均	274(3)	154.5(49)	190.6(49)	221.1(26)	185.1(127)
公立平均	236(2)	128.8(42)	164.2(45)	221.1(26)	165.6(115)

第5表 日常使用絵本園児一人当り冊数

	㊶	㊷	㊸	㊹	平均
国立	7.78	3.82	3.97		4.11
公立	3.88	1.96	1.03	0.79	1.09
私立	7.23	1.35	1.24	0.76	1.11
平均	6.52	1.96	1.33		1.28
公立平均	5.83	1.64	1.12	0.78	1.10

本調査は発表者を含む文部省教材等調査研究会幼稚園小委員会指導書「言語」篇編集委員会が、「絵本による言語指導」の実態調査のためおこなったものの一部である。各都道府県ごとに約五園(都市、農村、設置者別、園の大小などを考慮)を選び、昭和三三年五月一日現在の実態を調査用紙に記入してもらった。年間絵本購入状況は第2、3表によって一園平均一四三冊、八三九二円であるが最低六百円から最高四万円まで、一面に絵本の位置の定

まっていなことを思わせる。日常使用絵本設備状況は第4、5表によるが、大園ほど悪い。第6表によれば月刊絵本がその七二%を占めている。幼児の絵本環境はかかる状態でよいかという重要な問題を提起する。月刊絵本は九六%の園が学級当り平均二・五冊を毎月園として購入し、また九一%の園が、園児全員が希望者に購入させている。絵本による指導法が問題となる。(第7表)

第7表 絵本による指導の重点(抄)

目 標	指 導 の 重 点	頻 度 数
知的理解を深める	語いをひろげる 生活経験をひろげる 経験をうらづける 理解力を深める 知識をひろげる 想像力をたかめる 観察力を養う	16 13 9 16 11 9 23
話す聞く活動に役立てる	言語活動を発する 話す聞く態度を養う(発表力を養う) よく話を養う 表現力を養う 正しい言葉を習得に役立つ 話し合いを養う	18 8 13 11 8 8 19
読みをたかめる	本をみる興味を育てる 絵を読む 正しい見方を育てる 取りあつかい方を知る	16 7 7 10
情操を育てる	情緒的感覚を養う	14
他の領域の活動に役立てる	自然物を知り、科学性を養う 生活指導に役立つ 活動の導入にする	10 16 13
その他		
とりあげない		30

第6表 日常使用絵本種類別

	総冊数	%
月刊絵本	16,765	72.3
物語絵本	2,335	10.1
伝記絵本	499	2.1
観察絵本	1,387	6.0
図鑑	462	2.0
童謡絵本	684	2.9
知能検査絵本	334	1.4
生活指導絵本	456	2.0
漫画風絵本	180	0.8
宗教絵本	39	0.2
その他	60	0.2
計	23,201	100

(その2) 幼児の絵本に対する興味の発達

幼児の絵本に対する興味の発達を、昭和三十三年五月、全国から選んだ一四四園のアンケートの結果の一部をまとめたもの。

1 全体的傾向 絵本の構成内容について、七割の園の五才児は絵本全体がひとつの話の筋をおおってできているものを好む。四才児は二、三頁ごとに話がまとまっているもの、三才児は一頁ごとに一場面を構成し、ある意味をあらわしているものを好む。

絵本を読む興味について、七割の園の五才児、五割の園の四才児、三才児は大部分の幼児が教師に絵本を読んでもらう要求をもつ。大部分の幼児が自分で絵本を読む興味をもつ園は五才児では五割、四才児、三才児は二割の園である。絵本を読みたがる時間は昼食のあとがいちばん多い。

絵本に出てくる文字に対する興味について、二割の園の五才児の大部分の幼児は絵本をみながら文字を読むことに興味をもつ。大部分の幼児が絵本をみているとき文字について質問するのは五才児でも一割の園にみえない。文字について質問を受けた時、大部分の園では教える。その教え方は語形法で読みかたを教えるというのが多く、少数の園では書きかた、筆順をも教える。

2 国公私、地方、地域、園の大きさ別の傾向 それぞれについて、絵本に対する興味の発達の度合いを比較した。

- ・ 私立 √ 国立 √ 公立
 - ・ 北海道・東北 √ 関東甲信越 √ 四国・九州 √ 近畿 √ 中国
 - ・ 住宅地 √ 商業地 √ 農業地 √ 漁業地 √ 工業地
 - ・ 二〇〇人以下 √ 二〇〇人以上 √ 一〇〇人以下 √ 五〇人以下
- 園の大きさ別